



広島大学歯学部

歯科衛生士教育研修センター主催

厚生労働省補助事業

第1回

2022年度 前期 リカレント研修会

「歯周基本治療における禁煙支援の位置づけとその役割！？」

— 歯科衛生士として、なにを聞いて、

どう対応すればいいのでしょうか！ —

LIVE配信：2022年4月20日(水) 19:30~21:00

オンデマンド配信（録画視聴）：2022年4月25日(月)~2022年5月5日(木)



愛知学院大学短期大学部  
歯科衛生学科  
教授 稲垣幸司 先生

### ご略歴

1986年3月	愛知学院大学大学院歯学研究科修了(歯科保存学専攻)
1988年4月	愛知学院大学歯学部助手(歯周病学講座)
1989年4月	愛知学院大学歯学部講師(歯周病学講座)
2000年10月	愛知学院大学在外研究員 (ボストン大学歯学部健康政策・健康事業研究講座)
2005年5月	愛知学院大学歯学部准教授(歯周病学講座)
2007年4月	愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科教授

### 講演の要約

日本の成人喫煙率は、どんどん低下してきていますが、残った喫煙者のニコチン依存は解決されていません。そのような中、2015年以降、いままでの紙巻きタバコの代替品として加熱式タバコ (heated tobacco products, HTPs) が急速に普及し始めました。加熱式タバコや電子タバコ (electronic cigarette, e-cigarette, vape) を含めた新型タバコは、紙巻きタバコに比べるとニコチン以外の主要な有害物質の曝露量を減らせると広報されています。しかし、病気のリスクが減るかどうかについては明らかでなく、紙巻きタバコを併用した場合には有害物質の曝露の低減も期待できません。また、HTPsのニコチンの曝露や吸収動態は紙巻きタバコと類似しており、ニコチン依存症が継続して、その使用中止がより困難になります。2020年4月より、望まない受動喫煙を防止するために、改正健康増進法が施行されました。その法律の抜け道として、喫煙者が無煙タバコ (smokeless tobacco) を併用することも危惧されています。したがって、医療従事者は、このような新タバコ事情を把握した上で、他職種と連携して、喫煙者の禁煙支援を実践していく必要があります。

当日は、歯周基本治療における禁煙支援の位置づけ、役割、喫煙者の判定、対応について、日本歯周病学会の手順書に基づいてやさしく楽しく解説させていただく予定です。